【報告書】　2024年　8月 30日

屋　号	まんがら自然塾	氏　名	[redacted]
題　名	まんがら自然塾「畑の学校」「田んぼの学校」		
期　間	2023年9月～2024年8月		

概　要

今の日本、そして国際社会の現状から、食料の安全保障、食の質や量の安心感と安全性が改めて問われるようになっている。また、スマホの普及により、デジタル機器とともに過ごす時間が急速に増え、子どもの成長だけでなく、大人の心身の健康への影響が心配されている。そこで、その課題を解決する一つの選択肢として、ミニサイズの畑、田んぼをレンタルし、そこで日の光、自然の音や風を感じて自分で米、野菜を育てて食べるという、人間が長い歴史の中で日常生活の一部として営んできたアナログな時間をもう一度取り戻すきっかけづくりをしている。

今回はその田んぼの学校、畑の学校の環境整備として、進入路の整備、散水用井戸ポンプの設置、道具倉庫の増設、レンタル作業道具の用意などを行い、どんな人でも、どんな気候でも、お米や野菜を栽培しやすいように利用環境ををを整えることができた。

内　容

助成期間中、畑の学校では、今回のメインのイベントである「春夏野菜講習会と畑の学校の整備作業」を2024年2月18日に実施した。大人と子ども計15名が参加、話し声や笑い声が響く楽しい作業日となった。そのあと、秋冬野菜講習会を2024年8月25日に実施した。

田んぼの学校では、通年の稲作の作業が進められ、稲刈りを2023年10月15日、脱穀作業を11月5日、苗床づくりを2024年4月14日、田植えを6月9日、田んぼの草取りを7月14日に実施した。収穫したお米のおいしさは、ラングループを使って炊き立てのお米の写真付きでシェア。普段食べるお米より断然おいしいと好評だった。

助成を受け、田畑の作業用のクワ、スコップ、バケツ、ゴム手袋などを３組用意、農作業時に利用者の負担少なく参加できる環境づくりをした。

また、散水や整備作業用水に使う井戸ポンプを設置した。今年も夏の高温乾燥が続き、利用者からは「安心して量を気にせず散水できることがありがたい」という声があった。また衛生面の向上として、作業後に手洗いを励行できるように水場の整備をした。

加えて畑の学校の進入路が狭かったので、女性でも安心して車を運転して入って来れるように、学校参加者の協力の元、路肩を石積みしてセメントで硬め、道幅を確保した。女性の利用者からは「通りやすくなった！」と好評

課題・問題点

利用者の確保、維持に努めること。YouTubeやSNSを通じて農の情報発信をするとともに、利用者募集の継続的告知をしていく。

夏の暑さなど気候変動の影響が出てきており、その中で品質の良い有機野菜を育てることの難易度が上がることが予想される。

今後の活動・対策

定期的な農作業の講習会を継続していく。また、個人契約だけでなく、学校や病院、介護施設など、幅広く様々な団体との契約も視野に入れ、多くの人が心身の健康のために利用するまんがら自然塾・体験農園（畑の学校、田んぼの学校）としていきたい。また自然農法や有機農法の日本を代表する指導者を招いて、農作業、食、健康など幅広いテーマで講習会を開催していく。